

人材育成研修スタート

琉通ロジ総研 分析・提案力に重点

【沖縄】琉球通運（喜納秀智社長、那覇市）のグループ企業などが加盟する琉通ロジステイクス総合研究所（新垣直人理事長）は4日、人材育成研修事業をスタートさせた。「沖縄のロジステイクス問題」をテーマに、3カ月間の集中講座で、物流の課題を数値・可視化して解決に導く手法を学ぶ。また、全体研修（計3



回）ではプレゼンテーション力を養い、地元業界のリーダーを養成していく。同日の第1回研修会には、グループ企業5社とオ

ブザーバーで沖縄総合事務局、那覇地域貨物運送協同組合（伊是名昇英理事長）などが参加。コンサルティング会社のエム・ロードエキスパート（兩宮美知恵社長、同市）の兩宮路男専務

「これからのロジステイクスを担うには、労働集団ではなく頭脳集団であるべき」と新垣理事長

が講師を務めた。

多様な意見を改善策に取り込むため、ベテランと若手を組み合わせて四つのグループを編成。労働生産性や中継輸送、人材確保などグループごとの改善テーマを定め、グループ演習でその達成に向けたスケジュールとKPI（重要業績評価指標）などを発表した。

研修の総括で、新垣理事長は「沖縄の物流の課題を見いだし、解決策を提案できる人材を育てるのが目的。これからのロジステイクスを担うには、労働集団ではなく頭脳集団であるべきだ。ベテランと若手がユ

ニークな発想や鋭い思考で改善策を探り、地元の業界を担う頭脳集団としてスキ

ルと知識を高めてほしい」と述べた。

（上田慎二）